

評価シート（年度評価）

名古屋市総合リハビリテーションセンターの管理運営状況

1 基本情報 <所管局:健康福祉局>

指定管理者	社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団		
主な業務内容	総合リハビリテーションセンターの運営		
評価対象期間	令和7年4月～令和8年3月	指定管理期間	平成27年4月～令和10年3月

2 評価結果

評価項目			評価区分	特記事項
1 基本事項	(1) 平等利用	市民の利用にあたって不公平が生じていないか。	○	
	(2) 開館の実績	利用日・利用時間が遵守されているか。	○	
	(3) 情報管理	情報の管理・保護が適切になされているか。	○	
	(4) 職員体制	職員の配置、勤務実績、労働環境等は適切か。	○	
	(5) 法令等の遵守	法令、協定書等を遵守しているか。	○	
	(6) 関係機関との連携	関係機関等との連携や協同が図られているか。	◎	
	(7) 事故・災害等への対策・対応	事故・災害等発生時の対策・対応が行われているか。	◎	
2 維持管理	(1) 建物・設備の保守点検	建物・設備が適切に管理されているか。	○	
	(2) 警備業務	安全で安心感のある環境を確保しているか。	○	
	(3) 衛生管理	衛生管理が適切に行われているか。	○	
	(4) 備品の管理	備品が適切に管理されているか。	○	
3 サービス	(1) 施設の利用実績	経営改善計画等に基づき、目標値は達成できているか。	○	関係機関との密な連携等により目標値を大幅に超えた事業があった。
	(2) 事業実施状況	事業計画に沿った事業が実施されているか。	○	
	(3) サービス提供状況	利用者へのサービス提供は適切に行われているか。	◎	
	(4) 利用者満足度	調査を実施し、結果を検証し、改善を図っているか。	◎	
	(5) 苦情・要望等対応	利用者の意見や苦情等に適切に対応しているか。	○	
	(6) 広報・PRの実施	施設や事業の広報・PRの取組みは行われているか。	○	
	(7) 法改正等への対応	報酬改正等に的確に対応しているか。	◎	
	(8) 環境整備	サービス提供のための環境整備を行っているか。	◎	
4 経費等	(1) 執行状況	指定管理料は適正に執行されているか。	○	収入が計画より少なかった。
	(2) 収支状況	計画通りの収支状況になっているか。	△	
	(3) 再委託	再委託の方法は適正か。	○	

【総合評価】

所管局のコメント・特記事項等
令和7年度においては、附属病院の運営を名古屋市立大学へ移管したことにより、新たな組織体制でのスタートとなったが、各事業において事業計画の運営方針に沿った取組みが行われ、利用者満足度の全体平均は95.6%と良好な水準を維持している。 また、就労移行支援サービス終了者の一般就労者の割合が84.8%と多くの利用者が復職や新規就労に結びついていた。 一方で障害者支援施設の入所利用率は87.4%から80.5%、日中活動利用率は83.2%から77.8%と前年度実績を下回った。それぞれ要因を分析し利用率の向上に向けた取り組みを検討されたい。 今後も専門性を生かした施設運営及び一層の収入確保に努められるとともに、医療から福祉への切れ目のない支援を提供するために、必要な取組みに関して名古屋市立大学と協力し、リハビリテーション治療等や福祉的支援を通じて、社会への復帰を目指す人々の支援に取組まれたい。

施設の現状

名古屋市総合リハビリテーションセンター（1か所）

施設の現状	施設概要							
	主に障害のある方を対象に、その社会的自立の促進を目的とした専門的かつ総合的なリハビリテーションを行うとともに、高齢者等に対しスポーツ活動の場を提供することにより、その心身の健康の保持及び増進に寄与することを目的として設置された施設です。また、高次脳機能障害については、愛知県の支援拠点機関の指定を受けています。 具体的には、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に規定する障害者支援施設、身体障害者福祉法に規定する身体障害者福祉センター及び補装具製作施設、並びに医療法に規定する診療所を運営するほか、身体障害者補助犬法に基づく介助犬・聴導犬相談・認定事業等、各種事業を実施しています。 指定期間については、安定的な医療・リハビリテーション提供体制の確保や利用者の信頼確保、長期的視野にたった研究・開発への取り組みといった観点から、10年間としております。 また、センターの今後のあり方を検討するため、指定管理期間を3年間延長し、外部の有識者を交えた懇談会を設置し、検討を行っています。							
	市の収支状況(千円)（7年度決算(見込)額）							
	支出			収入				
	指定管理料	その他	計	使用料	その他特定財源	一般財源	計	利用料金
	1,419,607	0	1,419,607	250,515	49,154	1,119,938	1,419,607	—
	特記事項							
管理運営指標の状況	取組状況							
	指標	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
	就労移行支援サービス終了者のうち一般就労者の割合(※)	%	78.6	67.4	69.8	84.8		
	高次脳機能障害外部機関連携・支援件数	件	3,242	4,442	4,139	4,465		
	特記事項							
	(※)「就労移行支援サービス終了者のうち一般就労者の割合」の一般就労には復職を含み、就労継続支援A型などの福祉的就労を除く。 なお、早期の社会復帰を目指し、サービス利用期間は標準24か月のところ、平均して9.9ヶ月で終了している(令和7年度)。							

※支出のうち「その他」欄は、経常修繕費等を記載

評価シート（中間評価）

名古屋市総合リハビリテーションセンターの管理運営実績							
1 基本情報				＜所管局：健康福祉局＞			
指定管理者	社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団						
主な業務内容	総合リハビリテーションセンターの運営						
評価対象期間	令和2年4月～令和8年3月			指定管理期間	平成27年4月～令和10年3月		
2 管理運営状況（評価結果の推移）							
評価項目	評価区分						特記事項
1 基本事項	2	3	4	5	6	7	
(1) 平等利用	○	○	○	○	○	○	
(2) 開館の実績	○	○	○	○	○	○	
(3) 情報管理	○	○	○	△	△	○	
(4) 職員体制	△	△	△	△	△	○	
(5) 法令等の遵守	○	○	○	○	○	○	
(6) 関係機関との連携	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
(7) 事故・災害等への対策・対応	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
2 維持管理							
(1) 建物・設備の保守点検	○	○	○	○	○	○	
(2) 警備業務	○	○	○	○	○	○	
(3) 衛生管理	◎	◎	◎	◎	◎	○	
(4) 備品の管理	○	○	○	○	○	○	
3 サービス							多くの項目において目標を上回る実績となっており、概ね計画通り運営がされていた。
(1) 施設の利用実績	○	○	○	○	○	○	
(2) 事業実施状況	○	○	○	○	○	○	
(3) サービス提供状況	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
(4) 利用者満足度	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
(5) 苦情・要望等対応	○	○	○	○	○	○	
(6) 広報・PRの実施	◎	◎	◎	◎	◎	○	
(7) 法改正等への対応	◎	◎	○	○	◎	◎	
(8) 環境整備	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
4 経費等							
(1) 執行状況	○	○	○	○	○	○	
(2) 収支状況	○	○	△	△	△	△	
(3) 再委託	○	○	○	○	○	○	

年度ごとの総合評価（所管局のコメント・特記事項等）	
2 年度	医師を始め 5 名の欠員があった。令和元年度末より欠員数は増加しているので、引き続き解消に努められたい。 各事業において事業計画の運営方針に沿った取り組みが行われ、利用者満足度全体の平均は 95.1%と良好な水準を維持している。その一方で、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ほとんどの事業において昨年度実績を下回った。外来患者 27,000 人から 25,032 人、通所リハ利用者 15,341 人から 11,139 人へと減少するなど、特に通所系のサービスへの影響が大きかった。 また、新型コロナウイルス感染症への対応として、附属病院における電話診療やリモート面会の導入、就労移行支援におけるオンラインによる在宅訓練を実施するなど、できる限りサービスを維持できるよう工夫がなされた。附属病院では、PCR 検査実施体制の整備や新型コロナウイルス感染症から回復したリハビリが必要な患者の受け入れを行うなど、公的医療機関としての役割を果たした。 引き続き専門性を生かした施設運営を行うとともに、様々な方策を検討・実施し、収支改善に努められたい。
3 年度	期間を通じて 5 名（医師 2 名、看護師 3 名）の欠員があった。引き続き、欠員解消に努められたい。 各事業において事業計画の運営方針に沿った取り組みが行われ、利用者満足度全体の平均は 94.9%と良好な水準を維持している。その一方で、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用実績としては目標値を達成できなかったが、多くの事業において昨年度の利用実績及び収入額を上回った。 また、新型コロナウイルス感染症への対応として、昨年度に引き続き、附属病院における電話診療やリモート面会等を実施するなど、できる限りサービスを維持できるよう工夫がなされた。附属病院では、PCR 検査実施体制の整備行うなど、公的医療機関としての役割を果たした。引き続き専門性を生かした施設運営を行っていただきたい。 なお、第 2 期指定管理者公募申請時における平成 27 年度歳入提案額と比較し、歳入欠損が続いていることから、第 5 次経営戦略計画（令和 5～7 年度）策定にあたっては、具体的な歳入目標を定め、歳入確保に努められたい。
4 年度	期間を通じて 4 名（医師 1 名、看護師 3 名）の欠員があった。新たな採用により看護師については欠員が解消されたが、引き続き、欠員解消に努められたい。 各事業において事業計画の運営方針に沿った取り組みが行われ、利用者満足度全体の平均は 95.3%と良好な水準を維持している。その一方で、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用実績としては目標値を達成できなかったが、多くの事業において昨年度の利用実績及び収入額を上回った。 また、新型コロナウイルス感染症への対応として、附属病院におけるアフターコロナの入院患者の受入れを実施するなど、公的医療機関としての役割を果たした。引き続き専門性を生かした施設運営を行っていただきたい。 なお、第 2 期指定管理者公募申請時における平成 27 年度歳入提案額と比較し、歳入欠損が続いていることから、第 5 次経営戦略計画（令和 5～7 年度）に基づき、具体的な歳入目標を定め、歳入確保に努められたい。

5 年度	医師を始め 3 名の欠員があった。令和 4 年度末より欠員数は減少しているものの、引き続き解消に努められたい。 各事業において事業計画の運営方針に沿った取り組みが行われ、目標値を概ね達成している。新型コロナの影響が薄れ、障害者支援施設の利用率は 95.4%と改善したものの、医師の欠員により病床利用率は 68.9%と減少しているため、改善に向けた取り組みを実施されたい。令和 5 年度には高次脳機能障害支援センターの人員体制を強化し、医療機関や地域の事業所との連携を密にしたことで相談等の実績を上げており、引き続き専門性を生かした施設運営を行うとともに、様々な方策を検討・実施し、収支改善に努められたい。
6 年度	医師 3 名の欠員があった。必要な人員について確保に努められたい。 各事業において事業計画の運営方針に沿った取組みが行われ、目標値を概ね達成しており、利用者満足度全体の平均は 95%であり良好な水準を維持している。 附属病院の名古屋市立大学医学部附属病院化に伴う改修工事の影響によりリハビリ室や病棟の一部を一時的に閉鎖するなど利用率は低下したが、代替の場所にて専門的なリハビリを行うなどの対応を行っている。障害者支援施設の入所利用率は 94.9%から 87.4%、日中活動利用率は 88.3%から 83.2%と前年度実績を下回った。 今後も専門性を生かした施設運営及び一層の収入確保に努められるとともに、医療から福祉への切れ目のない支援を提供するために、必要な取組みに関して名古屋市立大学と協力し、リハビリテーション治療等や福祉的支援を通じて、社会への復帰を目指す人々の支援に取り組まれたい。
7 年度	令和 7 年度においては、附属病院の運営を名古屋市立大学へ移管したことにより、新たな組織体制でのスタートとなったが、各事業において事業計画の運営方針に沿った取組みが行われ、利用者満足度の全体平均は 95.6%と良好な水準を維持している。 また、就労移行支援サービス終了者の一般就労者の割合が 84.8%と多くの利用者が復職や新規就労に結びついていた。 一方で障害者支援施設の入所利用率は 87.4%から 80.5%、日中活動利用率は 83.2%から 77.8%と前年度実績を下回った。それぞれ要因を分析し利用率の向上に向けた取り組みを検討されたい。 今後も専門性を生かした施設運営及び一層の収入確保に努められるとともに、医療から福祉への切れ目のない支援を提供するために、必要な取組みに関して名古屋市立大学と協力し、リハビリテーション治療等や福祉的支援を通じて、社会への復帰を目指す人々の支援に取り組まれたい。

3 利用状況等

具体的な取り組みや成果等

国の法改正に対し新たな事業の実施、夜間や土曜日における訓練及び相談の実施、利用定員を変更する等柔軟に対応しており、障害者のニーズに即した事業展開が行われてきたものと考えられる。

4 収支状況等

具体的な取り組みや成果等

附属病院については、医師の欠員や診療収入が減少傾向にあるなど課題が多いことから、令和7年度より名古屋市立大学へ運営を移管した。
障害者総合支援法に基づく自立支援収入は増加したものの（令和2年度：約213,796千円⇒令和7年度248,358千円）、令和6年度以降減少傾向にあるなど改善が望まれる。

5 利用者の意見や満足度等

利用者の意見や満足度等の内容・推移

施設の退所時や利用終了時などに利用者へアンケート調査を実施しているが、「満足」又は「まあ満足」と回答した割合が、期間を通しておおむね95%を超えており、利用者満足度は良好な水準を維持している。

6 総合評価

所管局のコメント・特記事項等

名古屋市総合リハビリテーションセンターは、相談から医療、訓練を経て社会復帰に至るまで総合的で一貫したリハビリサービスを提供することを目的として設置した施設であるが、附属病院においては、医師等の確保や収支状況の改善など運営上の課題があることから、市民のニーズに合ったリハビリテーションサービスを安定的・継続的に提供していくため、令和7年度より名古屋市立大学へ運営を移管した。
福祉部門については、令和6年度から令和7年度にかけて外部の有識者を交えたあり方検討懇談会を開催したところであり、懇談会の意見を踏まえ、引き続き検討を行っていくこととする。